

昔から怖いものの例えを、地震、雷、火事、おやじと言いますが、今回は豪雨、雷、突風などの気象災害にスポットを当ててお話ししたいと思います。

近年、地球温暖化が進み、これまでの常識を越えた気象災害が世界各地で起こるようになりました。先進国では観測技術、観測装置の精度も上がり、豪雨、落雷、突風などの予報も向上してきましたが、予想をはるかに上回る事態も発生しています。

子供達も登下校中や近所の遊び場などで急な大雨や雷にみまわれる事も年に数回あります。大人は天気予報やニュースなどの情報に加え、過去の経験からある程度対処できますが、子供達はそうはいきません。

今号では近年、鵜沼で起こった気象災害の事例や対処法、住まいの近くの様々な気象情報がリアルタイムで入手可能なインターネットのサイトについてご紹介します。

身近な気象災害と対処法

事例1(落雷)

2005年7月5日の夕方、犬の散歩途中、はず池に隣接する林で雨宿りしていた母娘が松の木に落ちた雷の側撃を受け亡くなりました。

この時の雷雨では市内各所に落雷し、電柱やトランスに落ちた雷により異常高電圧が電線を通じて周辺の家に流れ、停電や家電品破損など、多くの家庭で被害が出ました。これは梅雨明け頃に多い夕立によるものでした。

また、春雷や花散らしの嵐の名称にあるように3月、4月にも寒気と暖気があぶつかったの雷の発生や突風が吹く事があります。

対処法:雷が鳴り出したらできるだけ早く建物の中に入りましょう。

また、高い木や電柱など雷の落ちやすい場所から離れるようにして下さい。校庭や広場、海岸といった広い場所にいると雷の標的になる事もあります。ピカッと光ってから3秒以内に大きな雷鳴がしたり、髪の毛が逆立ったり、肌がピリピリしたりする場合は身に危機が迫っています。素早く建物の軒下などに移動し、身を低くして雷雲が行き過ぎるのを待ちましょう。そのような状況では家の中でも雷サージによる誘電を避けるよう家電品から1m以上離れて下さい。



雷の電圧は1~2億ボルト

事例2(集中豪雨、ゲリラ豪雨)

2005年9月4日の深夜から翌9月5日未明にかけて、東海から関東南岸に停滞する秋雨前線に向かって、台風14号の影響を受けた暖かく湿った風が流れ込み、首都圏を中心に豪雨に見舞われました。

鵜沼松が岡1丁目の境川沿いや鵜沼海岸3・4・5丁目の引地川沿いで、床上、床下浸水の被害が出ました。この時間帯、満潮と豪雨が重なった上、排水能力を超えた雨水が低地に流れ込み、一部でマンホールからも水が吹き出しました。鵜沼藤が谷のはず池付近も昔から集中豪雨で何度となく水害を受けています。

鵜沼小学校でも2007年7月の雷雨で下校を1時間ほど見合わせたり、2008年5月の登校時に降った豪雨で第2ブロックからの登校という事もありました。また、湘南学園グランド横の通学路で、落ち葉で詰まった排水溝に大量の雨水が流れ込み、道路冠水した事もこれまでに何度もありました。現在は排水溝の蓋の改良工事や学園側の配慮により改善されています。

対処法:1時間あたりの降雨量が60ミリを越える場合、排水能力を超え、各所で水があふれ出し冠水する恐れがあります。学校側では朝6時45分の時点で神奈川県東部または湘南地方に大雨、強風、洪水のいずれかの気象警報が出ている場合、児童の登校を見合わせ、その後の対応については7時15分頃に緊急連絡網を回します。(詳しくは鵜沼小だより2008年度6月号No.2に記載してあります)

狭小道路の多い鵜沼において、傘をさし徒歩で登下校する子供にとって、車での送迎はかえって迷惑をかける事になります。特別な場合を除いては徒歩で迎えに行くなどの対応をお願いします。また、興味本位に川や池などを見に行かないで下さい。低地や地下道、地下街も場合によっては急に水が流れ込んでくる可能性がありますので注意して下さい。



はず池横の道路が大雨で冠水

事例3(雹 ひょう)

2008年3月25日、落雷を伴った雹が降り、鵜沼でも停電となった事は記憶されている方もいらっしゃるかと思います。遡ること2002年5月、辻堂から鵜沼、片瀬の狭い範囲においてダウンバースト様現象が起きました。急速に発達した積乱雲から、局地的且つ短時間に雹を伴った冷たく強い下降気流が吹き降りました。時刻は事例1同様夕方でした。みるみる内に空が真っ暗になり、雷鳴が轟いた後、北東方向から突風を伴って、パチンコ玉からビー玉サイズの雹が大きな音をたてて落ちてきました。嵐が通り過ぎた直後、至るところに多くの雹が落ちていて、打ち抜かれた庭木の葉や折れた枝も散乱していました。また、自動車の車体が所々窪んだり、古くなった塩製の波板の屋根が打ち砕かれたり、温室のガラスが割れたりという家もありました。



ビー玉サイズの雹

対処法:湘南地区ではまれな現象なので事前に察知する事は難しいですが、雹は時としてゴルフボール大や国内では過去に直径30cm弱、重さ3.4kgという雹も降った記録があるそうです。頭に当たったら“たんこぶ”どころの怪我では済みません。外出している際は最寄りの軒下に入り、頭を覆うようにして身を守って下さい。家の中にもガラス窓には近づかないようにしましょう。

事例4(突風 竜巻 つむじ風)

2006年4月20日正午頃、寒冷前線通過に伴い藤沢市白旗で竜巻と思われる突風が吹き、作業所の屋根が傾いたり、住宅の屋根瓦が飛ばされたり、ガラスが割れるなど41棟の家屋で被害があり、周辺家庭約2200戸が停電しました。

藤沢市内での竜巻の発生は珍しい事ですが、強風で下藤が谷公園の高さ20m近くもある太い松の木が数本、根本からなぎ倒された事もありました。

メイストームと呼ばれる5月のゴールデンウィーク前後に吹き荒れる嵐にも注意が必要です。



ニュースで放映されたつむじ風

また、学校のグラウンドやイベント会場でつむじ風が発生し、テントが飛ばされ怪我をしたという事例を聞きます。強い日射で地表面が熱せられ、上昇気流が発生した状態に強い横風が加わると小規模な渦巻状の風が出現します。これを塵旋風(じんせんぷう)と言います。鵜洋小学校では校庭と中庭の間の渡り廊下を強い風が抜ける事があり、運動会や地区レクなどでテントを出す際には気をつける必要があります。

対処法:風速20m/sを越えるような風が吹いている場合は大人はもちろん体重の軽い子供は突風で転倒したり、飛んできた木の枝や看板等で怪我をしたりする可能性もあります。瞬間的な突風では平均風速の1.5~3倍に達すると言われていています。台風はもちろん突風の吹く日の外出はご注意下さい。特に自転車での外出は大変危険です。転倒どころか自動車との接触事故につながる事もあります。

以上、4つの事例をご紹介しましたが、近年、ゲリラ豪雨という言葉がニュースや天気予報で聞かれるようになりました。台風のような大型低気圧は発生から早くても数日、長ければ10日ほど掛かり発達、接近してくるので事前に対応はできますが、急速に沸き立ち発達する夏に多い積乱雲や爆弾低気圧と呼ばれる晩秋から冬、早春に多い温帯低気圧は豪雨と共に突風や落雷を伴います。

これらによる気象災害は特に注意が必要です。そこでインターネットや携帯電話を用いた気象情報に関するリアルタイムな降雨や落雷、風などの情報についてご紹介致します。お役立ていただければと思います。

気象庁のホームページ:風向、風速の情報のほか各種気象情報がチェックできます。
パソコンからのアクセス <http://www.jma.go.jp/jp/amedas/206.html?elementCode=1>

東京電力のホームページ:関東を中心に雨量、落雷位置などが分かります。
パソコンからのアクセス <http://thunder.tepco.co.jp/index.html>
携帯電話からのアクセス <http://www.tamokuteki.com/i/tenki2/index.htm>

ウェザーニュースのホームページ:雨雲の動き雨量、落雷位置、地震情報なども分かります。
パソコンからのアクセス <http://weathernews.jp/radar/>
携帯電話からのアクセス URLが長いので“ウェザーニュース”で直接検索して下さい。

編集:鵜洋小KFP広報部